

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・

地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

も く じ

□総会報告.....	1P	□Zoom会議をやってみよう！.....	3P
□ウイズコロナの暮らし.....	1,2P	□アンケート協力をお願い.....	4P
□NPO現場視察レポート.....	2P	□サービスラーニング経過報告.....	4P
□新年度 理事就任・退任のご挨拶.....	3P	□サポちたインフォメーション.....	4P

総会のご報告とウイズコロナの暮らしを考える

■熊本災害基金＜2020熊本水害支援＞のお知らせ

7月4日未明、熊本県南を中心に発生した豪雨水害により被災されたみなさまに、心からお見舞い申し上げます。熊本の地域課題・社会問題を解決するため、2019年9月に市民発で設立されたコミュニティ財団、(一財)くまもとSDGs推進財団は、主に災害支援活動団体に対する活動経費に助成する、支援金の寄付基金を立ち上げられました。財団のHPは以下の通りです。ご参照の上、ご協力いただければ幸いです。

<https://congrant.com/project/kumamoto/1930>

■2019年度の事業決算・報告

2020年度役員を選任及び三役の選任について

2020年5月28日、知多市市民活動センターにて通常総会を開催、正会員56(団体27、個人29)うち、出席38(委任状34名)を以て、全ての議案を承認いただきました。また、6月1日理事会をオンライン開催し、定款第14条2項に基づき三役選任について互選を行い、夫々が就任を承諾したことをご報告申し上げます。

代表理事 市野恵
副代表理事 出口晋 (特非) ゆめじろう 理事長
山崎紀恵子 (認特非) 絆 代表理事
常務理事 今井友乃 (特非) 知多地域成年後見センター
事務局長
渡邊千恵 (特非) りんりん 理事長

当法人のあゆみは、東海市で1990年に設立された在宅介護家事援助活動から始まります。介護保険制度が始まる10年前の当時、市民互助団体が有償サービスを始めたことはとても画期的でした。「困った時はおたがいさま」の理念に共感した人々が小さな単位で集まり、地域ニーズに合致した活動を展開していきます。そして、自分たちの暮らしに必要なことは自分たちで生み出す地域経営(まちづくり)の概念を持った各団

体のリーダーが集い、持続可能のための学びの場をつくりました。この想いを受け継ぐべく私たちは、福祉活動及び市民活動に関する人材育成・研修、市民活動支援、情報交流促進、啓発・相談、調査・研究・提言の5種類の事業を行っています。

■ウイズコロナの暮らしを考える

昨年末に武漢で発生したコロナ感染症は、瞬く間に全世界へ広がった。当法人もこの影響により、3月と6月に予定していた強度行動障害支援者養成研修(基礎)を中止、5月の会員交流会を延期した。また、昨年度より3カ年にわたり、高齢者の社会参加促進のモデル事業を県から受託したが、全く実施予定が立たずに五里霧中をさまよう思いで、「感染症が当たり前になる時代に暮らす」がテーマのふわりんくる～じょんSDを視聴した。

第1部の対談では、感染拡大で生まれた中国の絆を垣間見た。一方で、武漢で父親が感染のため入院し、家に一人残された障がいのある子どもが亡くなるという悲しい事件が起きた。中国では、特に自閉症に対する啓発がなく、市民の間で偏見と差別が起こっているのが現状で、政策や法律は整備されつつあるものの、現場での実際の対応は遅れている。親、そして子たちの将来を支えるためには、人々の認識、専門の支援者育成、支援機能のある施設をつくるのか、(次頁へ)

□■2020年度会員交流会のご案内■□

日にち 2020年8月26日(水)
会場 知多市市民活動センター2階会議室
時間 10:00～12:00
テーマ 「SDGs時代のパートナーシップを語る会」
講師 近江正隆氏、栗林知絵子氏、村野淳子氏
川北秀人氏、※詳細は同封のチラシ参照

一歩踏み込んだ視察交流によって、日本の福祉を学びたいと話した。これに対して主催者は「この感染症によって人が集えない時代になったからこそ、事実自分で足を運び、リアルに情報収集しなければいけないと思う」と結んだ。

■NPO現場視察レポート

前述の主催者の言葉に背中を押され、ウイズコロナの暮らしの現場を学ぶため、(N)ひだまり（愛知県半田市）と(認N)抱樸（福岡県北九州市）に伺った。



マンション外観

ひだまりは、昨年5月に名鉄河和線青山駅から徒歩11分にあるワンルームマンション一棟、全64室を借り上げた。一般物件として運営しているが、見守りがあれば自立生活できるひとり暮らしの高齢者や親元から自立をめざす就労継続支援B型に通う人も入居する。

見守りとは、例えば服薬確認が必要な人へ声掛けを行う。掃除が必要な人に、公的サービスを調整した後、必要に応じて制度外サービスを組み合わせ提供することもある。また、子どもの虐待から身を隠したい高齢者を県外から受け入れたり、親の虐待でひきこもりになった人、母子生活支援施設を利用できない特定妊婦を受け入れるなど、シェルター機能も兼ねる。

1階にはモーニングやランチを提供する喫茶店があり、入居者をはじめ、地域の親子や高齢者、地縁役員、民生委員が利用する地域交流拠点となっている。また、65歳以上の人には来店数に応じてポイントを付与するプラチナエイジ会員証を発行し、定期的に来ていない人がしばらく来ないと、会員登録された連絡先へ電話したり、ケアマネがわかっているケアマネに連絡するなど、さりげなく見守る。

加えて、ロビーには半田市社協が運営する半田南部ささえあいセンターがあり、立ち寄り人との会話や喫茶を利用する一人暮らしの人の様子を伺いながら、地域を巻き込んだ多職種連携の関係を築いている。ここの特徴は、何か課題があって相談に来る所ではなく『来たついで』に話すため、自分自身が困難だという自覚はなく、多様な聞き手が、会話の中から問題を見つけて支援につなげている。

派遣会社の寮として賃貸契約もしているため、緊急事態宣言以降に6人が派遣切りのために退去した。他にも、4月下旬から5月にかけて失業と同時に居住を失った人の、一時的な住まいの提供を市から要請され受け入れている。代表の部田さんは、今

回のように就職活動する30代、4代の生活サイクルに合う公的施設がないことも事実だが、彼らとの会話から、社会のルールを知らない人が多いと感じている。生きる支援として、さりげなく彼らの動線上にフードバンク食品を提供したり、緊急貸付情報をロビーに掲示している。

抱樸の活動は、1988年に北九州越冬実行委員会として、ボランティア十数人の手弁当で作ったおにぎりや豚汁を路上生活者に配るところから始まる。同時に、彼らが重篤状態になる前に受診させることや自立支援施設の建設を行政に訴え続けた。彼らを路上に残し、自分たちは家に帰るという活動に矛盾も感じ、2000年にアパートを確保した。法人化に伴い、行政より1億1,000万円で自立支援センターを委託、年間約100人の自立につなげている。

これまで、3,500人が自立し、1,000体の共同納骨をしてきた。現在は、約2,000人を職員8人がアセスメントした情報を管理しながらサポートする。自立達成率及び自立生活



継続率ともに90%を超え、就労率も57%と高い。自立生活サポートセンターでは、自立後も独りにしない一生涯にわたるアフターフォローを行っている。

これまでの活動経験から、「家族機能の社会化」が必要だと訴える。赤の他人が家族のように関わられるような社会を目指す。例えば、問題が路上生活ならば入居すれば解決だが、東日本大震災の仮設住宅で起こった問題と同じ。人は、プライベートな時間と空間も必要だが、同時に自己認知するためには他人（仲間）も必要なのだ。訪問する関係性のある人がいなくて部屋がゴミ屋敷になった人も、本人は困らないが、近隣から「出ていけ」となり、また路上生活に戻ってしまう。抱樸では、この赤の他人の細いつながりを利用者と支援員、そして、ピアサポーターと呼ばれる世話人が、地域で暮らすための関係性を一緒につむいでいる。アセスメントから、問題を抱える人の多くは、幼児期の生活環境が重要とわかってきたため、子ども・家族marugoto支援事業部も設立した。委員会も合わせると30弱ものあらゆる事業が、子どもから看取りと葬儀、そして偲ぶ会と呼ばれる追悼集会まで、ひとり一人の暮らしを支え、生きる希望を生み出している。

ウイズコロナの暮らしを考えた。新しい生活様式に代表される、非接触型ツールやITを活用したオンライン会議はますます汎用化されるだろう。しかし、今回のNPO現場視察を通じて、私たちの暮らしは何も変わらない、コロナを理由に切り捨てる地域福祉であってはならないと感じた。（市野）

■新年度 理事就任・退任のご挨拶

理事就任 (N)あかり 濱田和枝様

6月から西村に代わって理事になりました。サポートちたの理事は、出たり入ったりで、3回目になります。「知多在宅ネット」設立前から何もわからないまま勉強させていただき、その経験を活かしてあかりもNPO法人への書類を整えることができ、ありがたかったことが思い起こされます。生みの苦しみから参加したことで、ずっと気になる存在のサポートちたに、また参加させていただくことを楽しみにしています。

しかし、昔のNPO間の情報交換的な役割から大きく進化し、活動の範囲が広がったサポートちたの理事としての役割が担えるのか不安もありますが、みなさん教えてください。

理事退任 (N)あかり 西村広美様

あかりに入会して、福祉の活動に興味を持ち、様々な研修会やイベントに参加しました。その中でも、サポートちたの主催するNPOを巡るバスツアーに参加した時、他の団体の方々が『困ったときはおたがいさま』の気持ちを共通の理念として大切に、楽しみながら生き生きと活動している姿に、何故か新しさと懐かしさを感じたことを今でも鮮明に覚えています。そして、地域の団体を繋ぐ活動をするサポートちたの存在が、大切だと感じました。

6年前、あかりの代表として理事に就任した頃は、現場の活動が主体で、理事としての自分の役割は何一つわからず不安でいっぱいでした。リーダー研修や交流会、定例の理事会などで皆さんのお話を伺いながら、団体の代表としての姿勢や運営の在り方などを学ばせていただきました。この度、理事を退任することになりましたが、サポートちたのみなさまのご活躍をお祈りしております。

理事退任 岡本一美様

振り返れば、約20年前からサポートちたに所属、第1世代の理事の皆様の刺激的な意見交換の場に居合わせた幸せが思い出されます。それまでの人生では出会えなかったアントレプレナー（起業家）の方々が、「汗をかけ、靴を減らせ」「おかしいなと思うことがあったら、声に出し、行動せよ」「あったらいいなをカタチにする」「私のまちなあかりを灯す」…珠玉の言葉を発し、課題解決事業を実践していました。鈍感で、人の痛みにも疎く、ぐずで行動力もない自分。真反対の人々との出会いが、じわじわと自分を変えてくれたと思います。知多地域にはこのような人たちが多様な活動を繰り広げ、情報共有しながら発展する網の目を張っています。間違いなく「人が育つ土壌のある地域」。

このたびサポートちたの理事を退任することになりました。ご厚情いただきましたみなさまにお礼申し上げますと共に、今後も、日本福祉大学のサービスマーケティングや地域ケア研究推進センターの「0-100研究」等でお目にかかると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■Zoom会議をやってみよう！

最近、「Zoom」という言葉をよく聞く。これはオンライン会議システムの一つで、スマホでも簡単に参加できることもあり、コロナ禍の折、三密を避けるために広く使われるようになった。

<三密を避けること以外のメリット>

- ・会議参加のための物理的な移動が不要で、時間と交通費が節約できる
- ・会議日時の設定の自由度が高い
- ・会議開催の費用が削減できる
- ・参加人数の変動に柔軟に対応できる
- ・場所の確保が不要
- ・大勢での利用も可能で、会議以外にも講演や講義、説明会などさまざまな利用ができる

<デメリット>

- ・参加者の表情や態度などの雰囲気が伝わりにくく、理解度がつかみにくい
- ・インターネットやパソコンなどの機材が必要
- ・機材の調子によっては、声や画像が途切れて会議が進まない場合がある

<準備>

- ①インターネットの準備（常時接続できるWi-Fiや有線LAN）
- ②機材の準備（カメラとマイク付きのパソコンが望ましい）
- ③Zoomに登録（無料登録で40分以内、100人までの会議が可能。¥2,000/月で時間制限無し）
- ④会議の日時を設定
- ⑤会議のURLなどの情報を参加者に連絡
- ⑥共有する資料は予めデータ化して、機材に準備設定した日時に、会議を開始する。

なお、会議中に画面が乗っ取られる「Zoom爆弾」が、一時期問題になったが、正しく運用すれば大丈夫である。

<Zoom会議を行って感じたこと・反省など>

- ・同じ部屋の中で、複数のパソコンを使って同じ会議に参加すると、ハウリングが生じたり、声の時差で聞こえたりする（スピーカーを使用せず、話すとき以外はミュートにすることが必要）
- ・自分の声がミュートされているのに気づかず、話してしまい、説明をやり直す羽目になった

（伊藤）

■連携・協働のアンケートにご協力ください！

愛知県主催「NPOと大学・企業連携促進事業」を、(N) ボランティアネイバーズと(N) ボラみみより情報局、当法人の3者共同事業体、あいち協働事業サポートセンターとして受託、企画運営を行っている。

事業の基本方針として、今日的に必要とされる連携・協働の形を見出すため、より効果的な課題解決を生む取り組みが増えることを目指して、調査を行う。また、社会課題に取り組む上で、NPOと連携する環境整備やニーズ、資源、到達点、課題を把握し、その発展の可能性を検討し、今後活かせる、汎用性を重視した情報と、連携・協働コーディネートへの教訓をまとめる。

調査の成果向上のため、各セクターより、協働事業やコーディネート経験を持つ、5名で構成された委員会を設置している。



6月30日、あいちNPO交流プラザにて、第1回検討委員会を開催し、アンケート項目や送付先について意見を交わした。

今後の予定として、愛知県内のNPO、大学、企業にアンケートを7月下旬に送付する。回答は、8月10日締め切り（郵送の場合は、当日消印有効）。（早川）

■日本福祉大学 サービスラーニング経過報告

社会活動を通して市民性を育むことを目的に始まったサービスラーニングは、今年で12年目を迎えた。3年生から始まる専門教育への橋渡しとして、2年生が対象のフィールド（現場）実践演習が特徴で、当法人は、大学・学生とNPOとの協働コーディネートを担当する。

例年5月に始まる活動先との顔合わせが、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、オンラインを活用し、世の中に与える影響や、現場の課題を勉強しながら、コロナ危機と向き合い、現場支援の実践や活動について、「私たちは何ができるのか」を考えながら、一年を通して学ぶ。（山森）

■知多市民活動センター主催 waiwai交流会 「やってみたら意外と簡単！ Zoomを使ってみよう」

自宅から、職場から、海外から、みんなの顔を見ながら会話ができる、新しい会議スタイル。こんな便利なものを使わないなんてもったいない！この機会に体験してみませんか？

〈日時〉7月29日(水)13:30~15:00

〈場所〉知多市民活動センター 2階会議室

〈参加費〉無料

〈持ち物〉ノートパソコン(カメラ付き)またはスマートフォン
イヤホン(できればマイク付きのもの)

〈問合・申込〉知多市民活動センター（担当:伊藤、久田）

☎0562-31-0381 FAX0562-32-3160

■手づくりカフェ Ada-Coda からのお知らせ

【8月末まで休業、9月再開予定】

新型コロナウイルス感染拡大防止及び、食中毒のリスクが高い夏期営業を避けるため、8月末まで休業し、9月1日営業再開に向けて、準備を進めています。

※休業を延長する場合は、改めてホームページ等で告知

【登録シェフ募集】

毎日シェフが変わる「ワンデイシェフ」方式の運営のため、コーディネーターが常駐することで、初めての人・グループでも、安心して料理に専念することができる仕組みになっています。登録は、年会費2,000円のみ。必須条件は、食品衛生協会が実施する年2回の検便です。（担当:安藤、幸前）

■SUPPORT NEWS へ情報をお寄せください

『サポちた インフォメーション』では会員のみなさまから集まる情報を掲載、情報発信を行っております。お気軽に情報をお寄せください。（担当:早川）

◆新会員紹介 ☆・*..*..*☆..*°..☆:* ..*:°.. ☆..*°

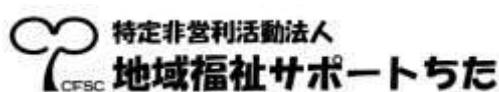
ご入会ありがとうございます。(2020/6/30現在)

【準/団体】株式会社R and Tカンパニー 様

【準/団体】NPO法人とこっ子 様

【準/個人】長谷川 陽一 様

:*° ☆:*..*..*☆..*°..☆:*..*°☆°:°.. ☆..*°☆..*



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市民活動センター1階
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◆地域福祉サポートちた
HP: cfsc.sunnyday.jp/
FB: facebook.com/sapochita/

◆手づくりカフェAda-coda
HP: cfsc.sunnyday.jp/01-adacoda/
FB: facebook.com/Adacoda.cafe/